

ともあき
石川 智章さん
(葛生東)



○プロフィール
佐野日本大学高等学校・日本大学卒
株式会社 YORI YORK 共同創業者
とちぎのしゅし主宰
産業カウンセラー

キラリ★ 話題の「ひと」

肯定からの改善改良

「私などが恐縮です」とおっしゃる石川さんは、4年前にお父様の闘病サポートを決断し、役員を勤めていた渋谷区のベンチャー企業を退任。小中学校の同級生とクリエイティブ会社を立ち上げ、東京と佐野の2拠点生活を開始されました。※新型コロナウイルス感染症の拡大を機に3月より都内の拠点を一旦閉鎖

ライフスタイル

テレワークを導入し、介護を手伝いながら経営を展開されてきたキーワードは「クロスボーダー」。「会社・家族・友達」や「地方・都心」の間にある境界線を、理想に近い形で交差させていくスタイル。慣習や既存の仕組みにとらわれず、本質を見ながらテクノロジーなども活用されているそうです。

仕事内容

社会学を背景に「人」と「WEB」の分野でキャリアを積み、20代後半から経営に参画。現在はその知見を生かし、企業の「理念設計」「販促ツールやWEBサイトでの表現支援」「集客支援」などを手掛けています。都内の大手企業から各県、佐野市のお客さまもサポートされています。

やりがい

「挑戦者であれ、挑戦者を支援せよ」を軸に、主体的に挑戦するお客さまと一緒に成果を上げていく時や「お客さまが、自らの望む方向に一步踏み出す瞬間」にワクワクするそうです。また「地方の子どもたちの情報格差や心理的安全性を改善し、一人ひとりの活躍と素敵な未来に繋げたい」とおっしゃっていました。

全国のローカルプレイヤーや経営者たちと意見交換・連携をしながら、地方や地元の「人と企業の活性」を試行錯誤していらつしやる石川さん。個人や法人がより輝くことから、佐野がよりよくなるって素敵なと感じました。

(市民記者 尾島民江)



市長からの

メッセージ

例年なら、ご先祖を供養しながら故郷を離れて過ごす家族と久々の団らんを楽しんだり、旧友たちとの交友を深める機会となるはずのお盆でしたが、今年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、帰省自粛や不要不急の外出自粛をされた方も多かつたと思います。

本市では、全国的な感染者の増加や県内の感染状況を踏まえ、県が示す行動基準より強化し、8月を「感染拡大防止強化月間」と定め感染防止に努めております。市民の皆さんには、感染防止に向け、いろいろとご協力いただきありがとうございます。

また、市のガイドラインに沿って感染防止対策をとっている飲食店に対し、マスク姿のさのまるの「取組宣言店」のポスターを配り、安心なサービスの目安としてもらっています。今後も各店舗で防止対策に協力してもらい、安心のさのまるポスターを広めていきたいと思えます。

さて、小中学校の児童生徒の皆さんには、今年は大変短い夏休みとなりました。プールや夏祭り、花火大会など多くの友達と遊ぶ機会が少ない「特別な夏」となってしまうと思いますが、その中でも今年しか経験できない思い出もあったと思います。夏休みは終わりましたが、また皆さんの元気な姿を見せてください。

長い梅雨が明けた途端、猛暑がやってきました。新型コロナウイルス感染症の拡大予防もあり、外出自粛されている方もいるかと思いますが、部屋の中でも熱中症の危険は十分あります。室内の温度調整やこまめな水分補給を十分行い、熱中症対策もお願いします。皆さんと一緒にこの「特別な夏」を乗り切りましょう。

(8月17日 記)

岡部正英

今回の表紙 「東消防署の隊員による水難救助訓練」 令和2年7月22日撮影

渡良瀬川で人が川に転落した場面を想定し、訓練が実施されました。9月は防災月間です。市民の皆さん一人一人が防災の意識をもち、自身を守るよう努めましょう。





こんにちは！ 「さのボラねっと」です

令 和元年東日本台風（台風第19号）以降、延べ12,421人（4月1日時点）のボランティアが全国から手弁当で佐野の被災地に入り、復興への大きな力となったのは記憶に新しいところです。今年1月、ボランティアに参加した市民の中から「継続的に佐野を元気にしたい」と「さのボラねっと」が発足し、社会福祉協議会に団体登録しました。

被災状況がだいぶ落ち着いてきた現在「今もまだ困っている人たちがいるはず。何かお手伝いできるかもしれない」と、困り事があれば、社会福祉協議会を窓口としてボランティア依頼ができるという広報をしながらニーズ調査を行っています。

「災害だけではなく地域の課題に目を向け、必要な人に届くような生活支援の輪」を目指した頼もしい団体が動き出しました。

「さのボラねっと」は、一緒に活動する仲間を募集中です。社協ボランティア活動の新しい担い手としてみんなで応援していきましょう。

（市民記者 永倉文子）

さのボラねっと

〒327-0003
大橋町3212-27
佐野市総合福祉センター内
☎(22)8136
FAX(22)8199



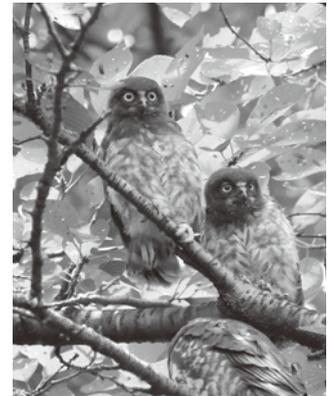
今年も帰ってきた！ 子育て奮闘中

上 羽田町にある上羽田八幡宮では、毎年4月ごろになるとフクロウ科の渡り鳥「アオバズク」が姿を見せます。アオバズクはこの地で卵を産み、ひなをかえすため、やって来ます。

今年は3羽のひながかえり、7月になると姿を見せてくれました。木の枝で休むひなの姿は丸々とし、元気に育っている様子でした。また親鳥は、カラスなどの外敵から守るよう、ひなに寄り添っていました。

アオバズクが飛来し始めてから10年近くたつといわれ、7月になるとひなを一目見ようと、多くのカメラマンが訪れます。ひながこちらを向くたびに、多くのシャッターが切られるのも、この時期ならではの風物詩ではないでしょうか。

例年8月には飛び立ちますが、また来年も戻ってくると嬉しいですね。



▲木の枝で休むアオバズク

佐野市
ばんでい

あさたね
麻種子をついばむアオソを
タケズツポで追い払う

秋から春にかけて、農村地域に群れをなして飛び回る小鳥がいます。日中は河原に多いことから「かわらひわ」といいます。からだのほとんどが緑褐色ですが、つばさには黄色いまだらがあつて、飛んでいる姿は美しくあざやかです。くちばしは太く、麻種子や穀物やひまわりの種子などをかみくだいて食べます。このかわらひわを方言でアオソといいますが、

アオソはキリリコロロジュイと鳴きますが、繁殖期になるとチョンチョンジュイと鳴き方を変えます。佐野は昔から麻の産地として知られ、各農家では昭和30年代ごろまで栽培していました。4月になると麻の種まきが始まります。そして種まきが終わると、組合内の人たちは当番に当たる家に集まって「麻まき祝い」をします。当日は白米を蒸して作ったバンダイモチ（餅の一種）を祝い物として食べることになっています。集落によっては、この行事が昭和の初めごろまで行われていました。麻の他に、養蚕ようさんやたばこの栽培も盛んでした。これらの栽培や飼育は、農家の生活を支える重要な収入源でした。

麻まきを待っていたとばかりに、アオソは群れをなして一斉に麻畑に舞い下ります。朝早くから物陰にかくれて竹づつをたたいたり、棒などを投げつけて追い払うこともありま

した。
「物陰にかくれてサー。アオソが来ると、タケズツポをパンパンパンとツツパタク（たたく）んだよ。すると、アオソはツツタマゲテ（びっくりして）、一斉に飛び立って逃げてったよ」
タケズツポは、長さ3、40センチほどの竹づつで、タカツツポ・タカツツポともいいます。

（市民記者 森下喜二）

